

大伴家持は、これ以前に越中国の長官を務めていたことがあ
る。在任中に五回の正月を迎えていて、二回歌を詠んでいる。と
ころが、越中国庁や自分の官舎に部下を集めたのは正月二日な
のである。正月一日ではない。

なぜ、越中では二日だったのに、因幡では一日なのか。毎月一
日の天皇の儀式は、雨なら中止する。なぜ因幡国では「今日降
る雪」の中で宴が開かれたのか。

誰も疑問に思わず、学説は存在しない。

奈良時代の生活を考えるとき、『万葉集』という文学作品を、
官公庁の報告書である史書と同じように扱い、そこに記されて
いることを奈良時代の常識・習慣のように受け取ってしまうこと
がある。『万葉集』に記されていることを根拠にして、当時の日
本全国で行われていたかのように考えてしまうことがある。

それは、古代はこうあつて欲しいという自分の幻想に囚われて
いるのではないか。

はじめての勅撰和歌集『古今和歌集』の仮名序に、奈良時代
以降「古の事をも歌の心をも知れる人はわずかに一人、二人」、
さらに「歌を知れる人、詠む人多からず」とある。この紀貫之の
認識は誤りだったという報告に触れたことはない。古代から現
代まで途切れることなく盛んに和歌が詠まれていたというのは
幻想で、和歌の衰微はあつたのだ。

では、それはいつ始まったのだろうか。

奈良時代は、官人は漢文で書類を作っており、藤原宇合・石
上乙麻呂などに個人の漢詩集がある。大伴家持が越中を離れ
る頃には『懐風藻』が編集されており、以下平安時代の勅撰漢
詩集編纂につながっていく。

『万葉集』は、因幡国の長官が元日に詠んだ歌でいきなり終わ
る。居並んでいたはずの多くの部下たちの歌は一首も記されて
いない。なぜなのだろう。官人の作歌は一般的ではなかったと考
えたらどうなるか。正月一日の宴で、和歌を披露した長官の姿
は、部下達の目にどのように映っていたのだろう。

こんなことを想像する私も、何かに囚われているのだろう。

(高岡市万葉歴史館 主幹)

会員情報 (射水市)

「どうしたらいい? がんばりつちやー!」

(H三十・六・五取材)

大門小学校を定年退職して、もう二十年経ちました。

退職後、教育相談関係の仕事のお誘いもありましたが、地元
の浅井公民館長を七年間勤め、公民館活動の県大会での発表
を最後に公務からすっかり身を引きました。

思い起こせば、東京の私立高校で三年間勤めた後、富山に帰
り、仁歩小学校を皮切りに小・中学校八校に三六年間勤めま
した。無事に奉職し終わったことを、そして、多くの方々にお世
話になったことを有難く思い出しております。

さて、公務を退いてからは家庭環境や健康に恵まれ、教員仲
間や学友との国内旅行、ダンナとの海外旅行、そして又、六十
歳を過ぎてから始めたゴルフでは、クラブ競技や各地への遠征旅
行を楽しみました。

しかし、三年前、七七歳の時、難病に罹り「要支援二」に認定
され、現在は、ダンナの援助が無くては生活できない状態になっ
ております。「遊び惚けた」ことと天罰かと、気弱になつていま
今です。今後は、孫の成長を見守りながら、静かに過ごせるこ
とを祈念しています。

(射水市 田中 ユキ子 H十一退)

退職後の楽しみとして、名品を所蔵する美術館へ出かけるよ
う心掛けた。近代絵画ばかりでなく、古代文明の遺産にも興味
を持ち、数々の企画展を見てきた。

最も印象に残っているのは、ヨーロッパの美術館である。ミケラ
ンジェロが描いた「最後の審判」の天井壁画を目にした時の感動
は今も忘れられない。ルーブル美術館では、「モナリザ」や「ミロ
のビーナス」等、本物をそこにある空気感と共に味わった。イ
ギリスでは、有名美術館・博物館が無料で入れることにも驚か
された。

鑑賞方法は、人それぞれと思うが、わたしは、音声ガイドに
従つてみることにしている。見た後は、解説書を求めて内容の見
直しをする。書棚には、それらの本が沢山並んでいる。美術館
や展覧会に出かけ、それぞれの作品の前に立った時、すつと心が
引き付けられる。特に名品は、時代を超えて魅了する力がある。
このような美の巡礼を今後とも続けたい。

(射水市 横山 睦子 H十一退)

昨年、県教職員厚生会主催の「慶寿会」に招待され、「喜寿」
を祝つて頂きました。感謝と同時に、私の第二の人生も愈々終
盤に差ししかつてきたのかなという思いを抱きました。

思えば三八年間の教員生活を終えた当時は何をしたらよい
か途方に暮れていました。そんな時、誘つていただいたのが詩吟
でした。

四十代・五十代から始めていた人に比し、遅れを取り戻すた
め、必死でした。テープが擦り切れるほど聞き、先生の吟じ方
を真似たものでした。そのうち徐々に褒めてもらえるようにな
り、褒められると悪い気はしないし、次の教室が待ち遠しくな
つたものでした。

翻つて見るに、我が教員時代はどうであつただろうか。「褒め
て育てる」という指導をしていただろうか。出来ることなら、も
う一度やり直したいと切実に思います。

最近、もう一度教える側に立つてみたいと思うようになり
「詩吟師範位」取得に挑戦しています。

「今度こそ」という思いを新たにしています。

人生の終盤を一層豊かに生きるために。

射水市 浅井 寿子 H十三退)

福島県

福島県公立小中学校

退職教頭会



藤子不二雄 ミュージアム

「最近嬉しいことがありました」

西白河地区 川島 綾子

ここ数年、歳を重ねたことを痛感しています。三八年間の中学校教員生活の中で卒業のクラスは十回担任しました。卒業生の現在の年齢が、六七歳・六四歳・六三歳・六十歳と還暦のお祝いの席に招かれて、還暦組は一区切りといったところです。

次に「厄払い」が済んだ五七歳組を頭に、これから(平成三二年一月一日にも学年主任として招待されている)の組と続いています。が、まもなく、一区切りです。

でも、嬉しいことは、今後も続きそうです。ほとんどは、個人的な付き合いですが、浅川中学校の三年五組は、今から約四十年前に「五組会」を設立したのです。いわゆる「親睦会」です。

この親睦会は、毎年「新年会・お花見会・暑気払い・忘年会」等、季

節ごとに開催しています。メンバーは、各々家庭を持ち、仕事があり、孫の面倒をみたり、介護をしている方もいたり等々、それなのに長く続いているには訳があるようにも思っています。それは、毎回場所を提供してくれる「清くんの邸宅」があるからだと思えます。五組会のメンバーは、清くんに感謝・感謝です。他にも、よい点として、五組の方は、浅川町在住に限らず何処からでも参加できるのです。

私は、よほどの用事がある時以外は、参加しています。毎回楽しいです。参加者は、常に二〜四名ですが、中学時代に戻り、和氣靄靄(わきあざ)です。実はこの五組会のメンバーのFくんが、題名「最近嬉しいことがありました」の主人公です。昨日(平成三十年十月十四日)Fくんが町長に当選しました。今日十五日の民報新聞の「ひと」に紹介された通り、異色の経歴の持主なのです。中三の時のFくんは、やんちゃで、違反の服装を着用し、思うままに振る舞い、他人のことは気にせず、活動的でしたが、やさしくて、思いやりがあつて、何よりも根性がありました。腕力のある子には、歯向かつたが、弱い子には、優しく接していたようです。

あの頃、若かつた私は、Fくんのお母さんから、「母親とは」を学びました。わが子に向かつて、理由も聞かず、「なぜ、そういう服装をするのだ」等、ガミガミ言うのではなく、わが子が「わかつた」と、頷く言いきかせをしたようなのです。生意気ざかりで、反抗心旺盛な子が、親や教師の言うことをよく聞いてくれました。「やる気・元氣・本氣が合言葉。子ども、高齢者、障害者が住みよい町づくりへ全力で取り組む」初めての町政運営ができるように、五組会を中心に関係者皆で応援していきたいと思っています。

「退職して思うこと」

安達地区 渡邊 克行

三六年間の教員生活を終え、現在は家業や息子の世話はあるものの、悠々自適の毎日を送っています。教員生活を振り返

れば、達成感よりも失敗の数々が蘇り、先輩や同僚の教員仲間、関係機関、保護者のご支援、そして何よりも子どもたちの笑顔があつたからこそ続けられたと、深く感謝しています。特に東日本大震災のときに、父親と家内をわずか三日の間に相次いで亡くしてから、教頭職と育児を含めた家庭の両立に四苦八苦していた私にとって、校長先生はじめ同僚の絶え間ないサポートには感謝してもきれない思いがあります。

ところで、息子が小六の頃は、我が町内会に小学生が三二人いたが、卒業後たった二年で小学生は八名と激減し、町内会の育成会が今年度限りで解散すると聞いています。地域の教育力が低下している中で、今後、縁の下力持ちとなり、自分の専門的な知識や経験を生かすことにより地域に何らかの貢献恩返しをしたいと考えています。

川柳

「八十路行く」

(安達地区 今江 忠(八六歳))

生き甲斐をたしかめ合った花見酒
億劫に好奇も同居する八十路
趣味娯楽日々を豊かにするエキス
夢と視野広げてくれたあの言葉
嬉しさがやる気を起こす潤滑油
八十五歳験の自分史徳ぶ日々
よく言ってくれたすつきりあの意見
病みながら五官に感謝してる日も
未知八十路生きて感じてマイペース
年を取る斯いことか八十路ゆく



群馬県

防災か減災か

群馬県公立学校退職
事務局長 黛典周

輝かしい年を迎えました。昨年は、想像を絶する災害が多発しました。一年を表わす漢字は、「災」でした。人間のひ弱さを痛感させられました。

今年、安心して生活できる年でありたいものです。では、どうか『防災はできない。減災はできる。』『防災講師の言葉』言い換えると、自然の猛威、天災は防げない。でも、人びとの努力によって、災害を少なくすることは可能なのです。すぐ当然のことですね。

しかし、実践が伴っていないのでしよう。三・一一「東北大震災」が、実例です。『高い津波はくる！』と指摘されていたのに、大惨事が起きた。でも、石巻市の子どもたちは、「てんでんこ」で、災難から逃れた。群馬大学片田先生の指導による。

そこで、チョット自分を振り返ってみましょう。

地震⇒家具の倒れ止めは着いている……？

落雷⇒遮断ブレーカーは正常か……？

群馬県公立学校退職
教頭会

岡山県

ボランティアに参加して

岡山支部 池田 俊夫

一昨年の三月より会報のお手伝いをさせていただいています。今まで年二回会報「福寿草」を送っていただいていたが、前会長のお声がかけて広報委員会へ入りいろいろな方の協力によって会報が発行されていることが改めて分かりました。これも一つのボランティアかなと思っています。

また、一昨年四月より町内のリサイクル委員を引き受け、お手伝いさせていただいています。最初の回収の日には、残念なことに自身の足の指が巻き爪という状態になり、痛くて歩けないので妻に代わって出してもらいました。すると「三十分の積み込み作業」と聞いていたのが一時間前から町内の各集積所を指導して回るということも仕事になっていると聞き二度びっくりしました。今までリサイクル品を持って行って分別して帰るだけでしたが、いざ立って見ると「このゴミはどこ出す？」とか、収集日でないゴミが出ているとか、様々なトラブルがあることが分かりま

岡山県公立学校退職
教頭会

台風⇒瓦は固定されているか……？

豪雨⇒水路の増水防御は……？

その他の対応は、大丈夫かな。

『備え有れば、憂いなし。』いや、

『備えが有っても、憂いはつきぬ！』

新年早々、失礼をいたしました。今年も近隣の方々と共に、明るく楽しい生活が続きますよう祈念いたします。

(一部省略)

四季を楽しむ庭づくり

川上成羽 吉岡 啓子

した。さらに、悪質な業者が勝手に持って行ったということもありました。

任期二年ですがリサイクル委員の担当の日の何日か後に腰が痛くなったりするので整形外科に通いながら、任期満了を楽しみに続けています。

カエデ、イヌシデの木陰に腰を掛け庭を眺める。至福の時だ。赤升麻、オカトラノオが揺れ、半夏生の頂が白色に変わっている。間もなく夏至。美男葛がオベリスクに巻き艶のいい葉を沢山つけている。今年もまた秋に赤い実を沢山つけますように。モミジのこの枝を剪定しなげや。今年、山芍薬が花をつけないなあ、寒肥を怠ったからな等々思いを廻らせる。

夫が病に倒れ、留守番役の母が高齢となり早期退職。右片麻痺と失語症が残った夫に、家族の力が大と主治医。当初は家と施設を一時半かけ往復。病状が安定すると母に教わりながら野菜づくりを懸命に。が収穫期になると猪やヌートリアに何度も食べられ気が失せた。

思いもよらぬ事に、車で三分の所にホームができ転苑。夕食介助に通っている。

二〇二四年程母に代わり山野草や庭木の世話をしている。四季折々に花や木が楽しめるよう庭の空いている所に苗木を定植。大山蓮華、利休梅、土佐水木、エゴノキ、ツリバナ、白雲木。山から夏櫨、ホタルブクロ、河原撫子、ウツボ草等々採って帰り庭木の下に植えた。

今、夏椿が咲き、橙色の仙翁、色とりどりの紫陽花が草取り作業で疲れた体を癒してくれる。

十年後、どんな庭になるか楽しみに今日も庭木の下草取り

作業に汗を流している。

(山野草のふりがなは編集した福岡がつけました。)

どんな花かしらべながら、間違っていたらすみません)

短歌と私

和気 今田 明子

今日久しぶりにゴルフの練習に行き、二〇〇球程打ったらやはり疲れた。来年は後期高齢者に仲間入りする。いつまでゴルフが続けられるだろうか。

思い出せば三十年前、元気だけは自信があった私が、検診の結果乳癌と分かり、即入院、手術。担任していた子どもたちにはずいぶん迷惑をかけた。再び教壇に立つ自信を失っていた私だが、主治医の「乳房には人格無し」という励ましで職場復帰。夫が定年退職をするのと一緒に、1年を残して退職するまで無事に努める事ができた。

病気をした時、人の命は先が分からない、したい事は今しかなくてはと思い始めた一つが短歌だった。「からたち」という短歌の結社に入り今日まで続けている。短歌は日々の小さな感動を詠み、後から読み返すと、その時の心のあり様や情景が浮かんでくる。

- ー 今までの作品からー
- ・ゴルフもできると手術の技を謝し
二十六年目の検診終わる
- ・片腕にて農一筋に生き来しに
抱けば軽し舅(ちち)の骨壺
- ・ニュージーランドの娘へのメールは九千キロを
瞬時に越えて「送信しました」

《県短歌大会受賞の歌》

◎保育器に命を繋ぎし女孫 いま組体操の頂点に立つ
短歌のお陰でいろいろな人との出会いがあり、人生が豊かになっている。今、ボランティア、お役や畑仕事 などの事が一杯ある毎日だが、短歌を続けながら、元気で心豊かに暮らしてゆきたいと思っている。



岐阜県

岐阜県公立学校退職
教頭会

アナログもいい

土岐市 安藤 正之

腕時計をお持ちのことと思いますが、あなたの腕時計は針の動く物でしょうか、それとも数字が出てくる物でしょうか。前のがアナログで、後のがデジタルの時計です。時に流れをつかむのには、針が動いた方がいいのでしょうか、一時流行った数字の時計はずいぶん少なくなってきました。自動車のスピードメーターも針がついていますし、電圧などを計るテスターも針のついたアナログが人気ようです。針がふらふらするところに、何とも言えないよさがあるのでしょう。

とはいえ、今はだんだんデジタルの世の中が変わってきていま

す。テレビが地デジ化されてからもう十年近くになります。画質が劣化しないので、ずいぶんきれいに見えるようになりました。録画方式も、そのときにアナログのVHSテープからデジタルのHDDやBDレコーダに変わってしまいました。私は、テープ録画が好きだったので、もうできないのでHDD録画に切替えました。そういえば、四十年前の初期のパソコンはテープを使って動いていました。アナログを使ったパソコンがあったなんて、今では考えられないことです。何年も前から、カメラもほとんどデジカメになり、フィルムを入れる必要がなくなりました。フィルムを使いたい人も大勢いますが、入手困難になって困っています。



先日、体調をくずして入院しました。そのとき身体につけられたデジタル医療機器は、患者の呼吸数・脈拍数・血圧・心電図をしつかり把握してくれる優れ物でした。毎朝測っている血圧計も便利なデジタルです。体温計も、もう水銀のものはありません、数分でピッと鳴って数値が出てくるものになっています。でも、寒暖計だけは、どうしてか、今でも赤いアルコールの上下するものが使われています。その方が分かりやすいかもしれません。オーディオの世界も、デジタルオンリーとは、ちよつと事情がちがいます、一時、CDがレコードに取って変わりましたが、近ごろレコードがまた復活してきました。レコード派の人にいわせると「レコードは人間の耳に聞こえない音まで録音しているからCDより音がいい」といっています。まあ、好き好きの問題でしょうが、。

アナログは、量を流れとして捕らえるので、感覚的なわかりやすいよさがあります。それに対して、デジタルは、非連続的な部分に分解して捕らえますが、正確さ・保存性には極めて優れています。それぞれの特徴を生かして、アナログとデジタルは、これ

からも共存していくことでしょう。(この文は、平成二二年度発行の土岐市退教互の文集「悠遊」第二四集に発表した「アナログ人間」を大幅に書き直したものです。)

きずな

〜どこかで、だれかつながっている〜

岐阜市 酒井隆子

平成二六年五月。役員会で、岐阜市退職教頭会の今後についての議論を重ねていました。

全国的な状況をみても会員の減少が大きな課題となっている。岐阜県でも高山市・可児市・大垣市など県の組織から脱退する郡市があいつぎ、退職教頭会の意義が問われていました。そんな中、岐阜市もやはり危機感を抱えていたのです。

このまま組織として存続できるのか。解散するのか。二度三度の役員会が持たれました。

新規加入者の減少に伴う会員の減少、高齢化、一人一人の人生観・価値観の多様化、役員(特に会長)のなり手がいない等課題が山積する中で議論でした。

退職教頭会設立を築いて下さった先輩先生方の、当時の社会情勢や教育現場の様子、教頭として現場を支えてきた立場・責任・自負などを通してのご苦労のお話をお聞きし、その上に今日の退職教頭会が息づいていることを胸に置きながら、現状について意見や思いを出し合いました。

・退職後は、本会のみならずいろんな場(趣味・ボランティア・地域活動・新しい職場等々)で自分の居場所を見つける人も多い。何に価値を求めるか、それぞれ の生き方の多様性がある。そんな中で、本会は、教頭職で退職したという一点でのつながりの組織、でも いいのではないか。

・いずれこの岐路がぐるぐるすることが予想されたが、大変難し選択。皆さんの考え方や生き方を学ぶのが楽しみ。多くの先輩方と交流できることはかけがえのない貴重 な体験。
・解散することは簡単。退職してから社会とのつながりのひとつとして、会に参加することによって社会に目を向けるきっかけとなっている。組織は維持していきたい。
・国、県の組織とのつながりをなくして、岐阜市単独で 活動したらどうか。

・本会に対する会員の期待は薄い。本会として行政に対して何かを要望するという期待、行政からの本会に対する期待もない。目的やメリットの検討が必要。
・設立当初の大きな目的である、教頭にも叙勲、をは、加入をためらう一因。

等々、多くの意見が出された上で、『無理のない活動で存続していく』と結論を出し、例年より一ヶ月遅れの総会で、確認したのです。

それから四年後の今、課題の一つ一つを何とか乗り越える策を試みながら、新会員も少しずつ増え活動内容も定着してきました。

私たちにとって、社会とのつながり・人と人とのつながりは、個人によつて様々であるけれど、その一つとしての退職教頭会では社会の動き、特に教育に関心を持ち続けていく気力・活力となり、貴重な場となっているのです。又、先輩をはじめ会員の方のお話を聞いたり、年一回の総会と懇親会、年二回の研修会での見学等、楽しみな場でもあるのです。特に、先輩方のお話を聞くことは、教育に関わる歴史の流れを描く上でもなくてはならない営みです。しかし、今後、行動範囲が狭くなってきた時には、



かつての先輩や同僚・友人とどうお互いの情報を交流し合えるのか、社会との接点が薄らいできた時を思うと、だからこそ、緩やかでもいい、どこかで誰かつながっていると考える退職教頭会でありたいと願うのです。年一回の全会員の近況報告を楽しみにしておられる方も多く、年数回の会報『きずな』の発行の意義もここにあると思います。

広島県

広島県公立小中学校
退職教頭会

広報委員 福山支部 秋山 泰章

「美味しい！」

「これ、何?!」

「なんか、ちがう!」

今、私がこだわって作っている物を食べた方からの反応、感想です。退職後、築九十年の古民家をリフォームして、新しいステージに入りました。衣食住の環境のまず住を変え、その環境に導かれるように食の環境を整えていくようになりました。

一つめは、家の前にある畑での野菜づくりにこだわっています。どうせ作るのなら、体にいい野菜を作って食べ、 ようと考えて、二年前長野県にプログラム農法による有機栽培の農業講座に参加しました。年間八回、新幹線で東京を経由して北陸新幹線を使って通いました。そこで学んだ野菜づくりをしています。野菜づくりは、土づくりから。

私を作る野菜は、「美味しい!」と、皆さんから声をあげていただくことが多く、明らかに今まで作っていた野菜とはちがいます。

す。たくさん収穫できた時は、販売もしています。

二つめのこだわりは、パンづくりです。リフォームを機にキッチンにガスオーブンを備え付けました。オーブン料理を作るとは、あまりありません。オーブンがかわいそう。そこでピザを作って食べてみました。レシピを見ながら焼いてみました。やっついで、生地を練る作業が大変なことに気づき諦めかけました。そのとき妻が、「パパ、パンづくり教室があるよ。体験レッスンに行ってみる？ちよどどピザづくりがあるよ。」と誘われ、体験教室に行ってみました。やはり道具、作業のポイントなど学ぶことがたくさんありました。週に二回くらいのペースで基礎コースから始め、リッシュコース、そしてマスターコースへと進み、ついにライセンスを取得しました。パンづくり教室を開いたり、販売もできる資格です。いま百種類以上のパンが作れるようになりました。今は、材料にこだわって、体にいいパンづくりをしています。小麦は、もちろん国産。イーストも国産。さらに砂糖を使わないで、玄米甘酒を使って作ります。糖質が少ない大麦を使ったパンも作っています。年に何回か、パンづくり教室を開いています。

三つめのこだわりは、魚です。美味しい魚を釣りに愛媛県宇和島の南にある由良半島に、一泊二日の釣り遠征に行っています。真鯛、大アジ、イサキ、ハマチ、ヒラマサなど高級魚と言われる魚を釣ります。美味しく食べるために、塩氷をたっぷり準備して、魚を釣りあげたら、即血抜き処理を怠らないで、一匹一匹丁寧にします。スーパの魚が食べられない方も

「秋山さんの魚は、いつも美味しいと言って食べるんですよ。」と感想をいただきます。自然が豊かな漁場に行き、高級魚と言われる魚を釣り、さらに美味しく食べるための処理をきちんとし、船長のかみさんと地元漁師さんから、魚の美味しい食べ方を聞いて、こだわって作り、食べます。

こだわりの野菜づくりのこと、パンづくりのこと、釣りのこと

をブログで情報発信しています。ある方が、自分がやっていることを発信しないと誰もおかないよ、と言われ、去年から発信しています。アクセス数は少ないですが、いいねと気に入っている方が増えてきました。全国には、同じような考えをしてくださる方がおられるということがよく分かり、自信を持つてやることにつながり、発信してよかったと思うこの頃です。



熊本県

熊本県公立学校

退職教頭会

ボランティア活動について

菊池支部会員 久保田 嘉憲

一、沖畑公園・武蔵小学校等の環境美化

私が入学しました四十数年前は近くに空地があり、昭和四八年に沖畑児童公園として整備され、子どもたちが自分の庭同様に利用していました。しかし、雑草・高木の根・石・落葉等で安全に遊べる環境ではありませんでした。

私は子どもたちが安全・安心して遊べる環境づくりをして来

ています。私の家から沖畑公園まで約五十m、一分くらいで行けます。雑草は四月〜十月まで繁茂し、落葉も楠三〜五月・桜八〜十一月等、強い風が吹きますと一面大変な量になります。私は人通りの少ない時間帯に草取りや落葉を掃いていきます。また、遊ぶのに邪魔にならない所へは草花を植え、すと、季節に応じて開花していますので心が和みます。落葉の量も多いので、時々深く掘って埋め、堆肥として活用しています。また、地域の人から草花の苗を頂いたり、公園や道端に苗を置いてあつたりする場合があります。大変ありがたいです。

二、児童・生徒の登校時のあいさつ運動及び交通指導。

平成十八年、孫が小学校へ入学した時、有志七名で発足して十年目になります。特別都合のある日以外は七時過ぎに家を出て八時三十分頃帰宅する日課です。毎朝片道約五百m歩 きます。私は近くを通られるすべての人に「おはようございます。」とあいさつをします。小学生・中学生・高校生・大 学生には学校行事、季節、友人、健康等について一言付け加えて話をすることもありま

す。毎週金曜日にはビニール袋を持って塵を拾って登校しています。

自動車の前を通った時は良く振り向いて、運転される人にあいさつをしています。また、あいさつをする時も一旦 停止する児童・生徒も多くいます。沖畑通りは時速二十Km に規制されています。また、平成十八年度より駐車禁止になっていますが、守られていない場合を良く見受けれます。オト ナが規則を守らなければ、子どもに指導することはできない、でしょう。命に関係します。何と言いましても子ども達の笑顔がすばらしい。私は近くを通られるすべての人から元気を 頂いています。

三.バレーボール・介護施設訪問

入居当時、団地対抗のママさんバレーボールが実施されて、いま私にはメンバーの一人から話がありましたので、コーチとして引き受けました。当時は武蔵小学校がありました。そこで、楠小学校で週二回実施していました。武蔵小 創立三五周年目にバレーボール会員全員に通知が出され、大部分の人が出席しました。その時、私は南京玉すだれ、銭太鼓をかくし芸として実施しましたら、会員から銭太鼓をした、いと言う希望がありましたので、今も週一回武蔵小学校体育館で銭太鼓、踊り、バレーボール、を実施しています。代表から介護施設の話があり、武蔵校区一・二・三町内、楠、石原町で銭太鼓(七曲)、踊り(四曲)を披露して会員が楽しくなるように実施していますから大変喜んで頂いています。それに、グリーンボード主催、退職教頭会が協力している上通、下通の清掃活動にも参加しています。(会報第六五号より)



東京-深大寺植物公園の睡蓮(山浦写真)

題字

静岡県公立小中学校退職教頭会

会長 長屋 梅子氏揮毫

令和二年三月三十一日
全国公立学校退職教頭会

東京都港区愛宕一丁目一七

愛宕山弁護士ビル四〇三号

発行責任者 会長 山浦朝日